

第15回 埼玉圏央道オオタカ等保護対策会議

第15回 埼玉圏央道オオタカ等保護対策会議  
議事録

日時：平成25年10月7日（月） 15：00 ～ 17：00

場所：大宮ソニックシティ ソニックシティビル7F 707会議室

出席者	座長	葉山 嘉一	日本大学生物資源科学部 准教授
	委員	池谷 奉文	公益財団法人日本生態系協会 会長
		柳澤 紀夫	公益財団法人日本鳥類保護連盟 理事
		勅使河原 彰	狭山丘陵の自然と文化財を考える連絡会議 前代表委員
事業者		鈴木 伸	鳩山野鳥の会 代表
		本間 淳史	東日本高速道路株式会社 さいたま工事事務所長
		真田 晃宏	国土交通省関東地方整備局 大宮国道事務所長
事務局			大宮国道事務所

第15回 埼玉圏央道オオタカ等保護対策会議

項目	主な意見と回答
開 会	<p>・定刻前ではございますが、委員の皆様がおそろいになりましたので、ただいまから始めてもよろしいでしょうか。よろしくお願いいたします。</p> <p>ただいまより第15回埼玉圏央道オオタカ等保護対策会議を開催させていただきます。</p> <p>委員の皆様におかれましては、ご多忙の中御出席頂きまして、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、本日の司会を務めます大宮国道事務所調査課長の宮下でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の会議は15時～17時までの約2時間を予定しておりますので、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。</p> <p>では、議事に入る前に、本日の配付資料の確認をさせていただきます。議事次第、会議資料①、会議資料②、会議資料③、そして参考資料でございます。また、事前説明の際にお渡しいたしました事前配付資料を机の上に置かせて頂いております。事前配付資料①、事前配付資料②であります。よろしいでしょうか。(事務局 宮下)</p> <p><b>【会議資料】</b>          会議資料① 平成25年繁殖期の調査結果          会議資料② 調査地Lの保全対策          会議資料③ 坂戸高架橋下のビオトープ整備の進め方(案)          参考資料 調査地Hにおける猛禽類調査結果</p> <p>・本日の議事は、議事次第にありますように、平成25年繁殖期の調査結果、調査地Lの保全対策、坂戸高架橋下のビオトープ整備の進め方(案)の3つを考えております。今回の会議の開催に当たりまして、事前に委員の皆様にご説明させて頂き、その際にさまざまなご意見を頂いているところでございます。ご意見の中には、状況を確認し今回の会議で報告するように依頼されていた事項もございましたが、現在検討を進めている状況であります。大変申しわけございませんが、次回以降の会議での報告とさせて頂くことでご了承いただきたいと思っております。(事務局 宮下)</p>



項目	主な意見と回答
<p>(1) 平成25年繁殖期の調査結果</p>	<p>・調査を担当させて頂きました埼玉県生態系保護協会の湯川と申します。7月10日の写真ですけれども、下向きの姿勢を見せている2羽が巢内雛でございます。左向きの姿勢で餌を与えるように見えていますのが成鳥のオスになります。((公財)埼玉県生態系保護協会 湯川)</p> <p>・その右側の17日の写真も、一番右側に見えるのはオスの個体ですか。[REDACTED]</p> <p>・7月17日の写真、右隣の写真ですけれども、下にちょっと白いおなか側と頭が少しだけ見えていますけれども、こちらが親鳥、成鳥のオスになります。その上から翼を広げて覆いかぶさるように来ていますのが巢内の雛になります。((公財)埼玉県生態系保護協会 湯川)</p> <p>・そうすると、12日以降は、メスの姿は巢の中にはなかったということですか。[REDACTED]</p> <p>・そうです。メスは巢内にはなく、また、来巢もせずということになります。ふだんの巢内は雛のみがいるという状態が続きまして、来巢するのは親鳥の成鳥オスのみという状態でした。((公財)埼玉県生態系保護協会 湯川)</p> <p>・わかりました。ありがとうございます。 委員の皆様方、いかがでしょうか。ご質問はございますか。よろしいでしょうか。 それでは、理解したということで、ご説明ありがとうございます。 [REDACTED]</p>
<p>(2) 調査地Lの保全対策</p>	<p>・続きまして、議事の2番目の「調査地Lの保全対策」についてのご説明をよろしくお願いします。[REDACTED]</p> <p>・「会議資料② 調査地Lの保全対策」の説明 (事務局 宮下)</p>

項目	主な意見と回答
<p>(2) 調査地Lの保全対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>具体的に保全対策の施工の内容ですとか細かいところのご提案がありました、今のお話で疑問な点あるいはご意見をお聞かせください。順番は問いませんので、お気づきになったところからよろしくをお願いします。</li> <li>立入防止柵に関してはいかがですか。 [REDACTED]</li> <li>・高さが書いていないのですけれども。 [REDACTED]</li> <li>・柵の高さですか。いかがですか。 [REDACTED]</li> <li>・柵の高さにつきましては約1.8mを想定しております。全体の設置延長は約370mと考えているところでございます。(事務局 山田)</li> <li>・空間を12カ所空けるというのは、柵の下のところを空けるわけですか。 [REDACTED]</li> <li>・そうです。下のところをべたっとつけるのではなくて、ところどころ12カ所空けます。(事務局 山田)</li> <li>・地面までついているところを、15cm穴を空けるということですね。連続的に15cm空けているということではないわけですね [REDACTED]</li> <li>・そういうことです。(事務局 山田)</li> <li>・というようなご提案ですが。 [REDACTED]</li> <li>・穴というイメージではなくて、支柱と支柱の間、パネル1枚分というイメージですので、15cm空いて、1～2mぐらい空いたところが12カ所ぐらいある。(事務局 宮下)</li> <li>・パネル1枚分の下が15cm空くと。 [REDACTED]</li> </ul>

項目	主な意見と回答
<p>(2) 調査地Lの保全対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういう意味です。支柱から支柱の間がこのように空いているというイメージです。(事務局 宮下)</li>   <li>・わかりました。[REDACTED]</li>   <li>・少し勘違いしてしまして申し訳ありませんでした。(事務局 山田)</li>   <li>・タヌキの気分になって、通りやすいでしょうかね。いかがですか。このぐらいあれば。[REDACTED]</li>   <li>・大丈夫ですね。[REDACTED]</li>   <li>・大丈夫ですよ。                      では、この辺は、こういう案でよろしいということですね。                      あとはビオトープ的な空間づくりですけれども、4ページ以降に具体的に植物の種類ですとか大きさですとかをご提案ですが [REDACTED]                      [REDACTED]</li>   <li>・4ページで、周辺の在来植生による自然化というのは大変良いことですよね。是非これは進めて欲しいのですが、ただ、私、前も言ったと思うのですけれども、木だけではなくて野草もきちっとやってくださいという話をしたと思うのですが、やはりまだ在来の木だけになってしまっているんで、ぜひ圃場で木と同じように在来の野草も増やして蒔き出せばいいので。樹木と野草というのは同じ重要性を持つ遺伝子資源なのです。木だけというのは至って良くないので、在来の野草と在来の樹木という、この2つによる植物群落の形成をきちっと書いて欲しいと思います。[REDACTED]</li>   <li>・より明確にするために、木本類だけではなくて草本類も在来のものを、この地域のものを使って欲しい、そういう意味ですが、それを明記して頂ければ。[REDACTED]</li>   <li>・わかりました。(事務局 山田)</li> </ul>

項目	主な意見と回答
<p>(2) 調査地Lの保全対策</p>	<p>・できるだけ植栽直後に効果を発揮させるために、樹木の高さを頑張っって少し高くされたというお話があつて、それが3mということですが、私がちょっと気になったのは、配植のところでは植栽間隔が提案されていますが、遮蔽植栽の場合は3mのシラカシを中心にして、1.5mの中低木、ヒサカキ、アオキがございすが、4m間隔になっていますね。これについてと、それから、その下の緩傾斜地の3mの高木に関しては植栽間隔8mとなつていて、最後のほうに括弧して植栽密度がヘクタール当たり1,700本となつていますが、このあたりがちょっと気になるところで、3mの高さの樹木を4m間隔で配置すると、どのように具体的になるか想像できますか。恐らく枝張りは、3mの背の高さだと2mぐらいです。それが4m間隔で並ぶわけですね。2mの樹間ですから、そうすると2m間があくわけですね。抜けているのですね。それで遮蔽になりますか。</p> <p>ちなみに、一般的に使われている雑木林の密度を実際に私が調査したところによると、10m方形で大体コナラやクヌギ全部合わせて高木が7~8本です。100m<sup>2</sup>に7~8本。その辺を考えると、ヘクタール当たり1,700本というのは、1万m<sup>2</sup>ですね。1000m<sup>2</sup>に直すと、密度は1.7本です。実は大分ばらばらの木なのです。成長を見越して樹木間隔を設定するのは当然なのですが、初期の段階から機能させるためには、一般的なやり方としては、ちょっと高密度に植栽をして、育っていくプロセスで間引きをしていって適切な密度にしていくというのが方法なので、ちょっとその辺を考えて頂きたいと思うのです。</p> <p>それから、最終的に緩傾斜地の法面についても、この本数で適切なかどうか、ちょっと心配な点がございします。</p> <p>最初から絶対これでやらなくてはいけないということではなくて、成長のぐあいを見ながらうまく調整していくということが基本なので、少なければ補植して頂くとか、少しそういう工夫をして、最初から樹木で植栽した枝葉が両側に閉じている構造に近いような状況にして頂くとありがたいと思うのです。</p> <p>・わかりました。検討させていただきます。ありがとうございます。(事務局 山田)</p>

項目	主な意見と回答
<p>(2) 調査地Lの保全対策</p>	<p>・いかがでしょうか。</p> <p>あとは、高木の下枝がやや上がっていくのに対して低木、中木がフォローするという、2段、3段構造で形成していけば、全体として機能しますので、良いと思うのです。</p> <p>A-A' 断面の断面図が一番下にもございますが、こういうイメージで植栽されるということですが。いかがですか。あとは水辺のほうもございます。■■■■■</p> <p>・ヨシとかフトイとかコガマを植栽することは良いと思いますが、遺伝子はどこから持ってくるものですか。■■■■■</p> <p>・ヨシ、フトイ、コガマにつきましては、この近くの水辺にある種ということでこの3種を選びました。この近くの水場のあるところから採らせて頂きたいと思っております。(事務局 宮下)</p> <p>・付近のところから採取してくるというお話ですけれども、採取先は大丈夫ですか。この仲間は比較的繁殖力が強いので非常に心配ではありませんけれども、集中的に採ってしまうと、そこを破壊してしまうことになってきますよね。大体目星はついていらっしゃるのですか。■■■■■</p> <p>・おっしゃるとおり、今、四角くカットしてブロックで持ってくるみたいなことが書いてあるのですけれども、それにつきましても、この中に植えるものを全部1カ所からとってきてしまうと、その部分が全部なくなるということになってしまいますので、そのようなことがないように考えながら持ってきて、または、先ほどの実生と同じように、増殖させてからとか、そのようなことを今後検討していきたいと思っております。(事務局 宮下)</p> <p>・いかがでしょうか。木本類のところでも結構ですし、水生植物関係のところでも結構ですが。</p> <p>ブロック擁壁の構造で工夫されて、特に下のほうですね、植物が生育するような、言ってみればコンクリートでできたポットを設置するというイメージですけれども、ここにはどういう植物を採用される予定ですか。■■■■■</p>

項目	主な意見と回答
<p>(2) 調査地Lの保全対策</p>	<p>・植栽スペースまでは考えているのですが、何を植えるかというのはまだ特定はしていませんので、今後提示させて頂きたいと思っています。(事務局 宮下)</p> <p>・イメージとしては、これを見ると多分ツツジか何かが入っているようですが、このイメージではないですね。■■■■■</p> <p>・これはどこかにあるものの写真で、■■■■■がおっしゃっているように、ここにあるものを、良さそうなものを何か選んで、水場に合うようなものを選んでいきたいと思っています。(事務局 宮下)</p> <p>・ただ、そのときに気を付けて頂きたいのは、場所は水の際ですけども、ここの水条件は非常に悪いですね。ですから、そういうことを考えて種類を選んで頂かないと、かわいそうなことになると思います。</p> <p>それと、この擁壁は何とかならないものでしょうかね。緑で覆うような工夫は。在来の植物の中でも、地面を覆う、岩場を覆えるようなツタの仲間ですとか、何種類かありますので、今こういう壁面緑化のいろいろな技術は高まってきていますから、その辺をご参考になって、できるだけダムの堤体みたいな、こういう空間はもう少し緩和して頂ければありがたいと思うのです。これは個人的な希望ですが。■■■■■</p> <p>・検討させて頂きます。(事務局 山田)</p> <p>・こういう工夫は、オオタカのためにはいかがでしょうか。オオタカの食べ物となる鳥たちが誘引される可能性を秘めているということですが。</p> <p>今のお話のように、より具体的にはまた今後提案して頂けるということですね。■■■■■</p> <p>・はい。(事務局 山田)</p>

項目	主な意見と回答
<p>(2) 調査地Lの保全対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いかがでしょうか。この段階でご意見を言っていると、どう考えたらいいかが前に進むかなと思いますが。</li> <li>5ページの左側の上に平面図が載っていますが、緑色で着色されたところは植物が覆う場所で、それ以外のところは開放水面となっていますけれども、ここは常時湛水される場所ですか。常に水があるところですか。■■■■■</li> <li>・調整池の機能として、水が入ってきたときに水が溜まるわけですが、そこよりも80cm掘り込みまして、常に水がある状態をつくり出すという考えです。(事務局 宮下)</li> <li>・それで浮島が成り立つわけですね。■■■■■</li> <li>・はい。(事務局 宮下)</li> <li>・そうすると、確かに擁壁が、これではちょっとかわいそうだね。もう少し工夫が必要でしょうね。■■■■■</li> <li>・その平面図の中に、だんごの串刺しではないですけども図が描かれています。これはどういう構造になるのでしょうか。■■■■■</li> <li>・このだんごの串刺しが、右側でいうところの止まり場、木工沈床とか浮島とかを表しております。具体的に木工沈床の形をこのように造るとか、浮島をこのように造るとかという具体的な絵ではなくて、中にこのように入れますというものです。イメージ的には、今の平面図の左の端に表しているように浮島がひし形がいっぱい並んだようにあり、止まり場が少しある。このように中に入れるということを、小さいですけども、表してございます。(事務局 宮下)</li> <li>・特に止まり場、木工沈床は、既にどこかでこれが採用されて使われている実績がございますか。恐らく、こういう構造を沈めれば、上のほうは水面から出るわけですよ。止まり場としては機能すると思うのですけれども。■■■■■</li> </ul>

項目	主な意見と回答
<p>(2) 調査地Lの保全対策</p>	<p>・ 埼玉県はどこでというのはちょっとわからないのですが、メーカーで間伐材を使って販売しますというのがあるので、これは製品としてあるということで、間違いなくどこかであるはずだと思っております。あと、よく河川の護岸の前面にこの形の木工沈床があるのは見たことございます。(事務局 宮下)</p> <p>・ いかがですか。何かご意見はございますか。[REDACTED]</p> <p>・ 浮島のやつで、丸太が幾つか浮いていて、その間をネット様のもので覆ってある構造ということで良いですか。[REDACTED]</p> <p>・ 申し訳ございません、具体的な構造までは把握していません。(事務局 宮下)</p> <p>・ この写真を見ている限りだと、植物はきちんと生えているけれども、この間を使ってカルガモが巣を造れないかもしれない。水面よりもちょっと上に何か土台になる部分が欲しい。そうしたら、その上へ、植物に覆われた見えにくいところなので、カルガモとかバンとかというのが巣を造れると思う。水のびちゃびちゃしたところからカルガモが積み上げていくことはないと思いますので。野球のグローブ1つでは狭いけれども、これ1枚分ぐらいのが植物の生えている間にあるという状況が造り出せば良いと思います。[REDACTED]</p> <p>・ そうすると、水ではない、上のところに平らがあって、草で隠すというイメージですか。(事務局 宮下)</p> <p>・ はい。[REDACTED]</p> <p>・ ありがとうございます。(事務局 宮下)</p> <p>・ 例えば、丸太を2～3本組み合わせて浮かせておくというのでも良いですね。[REDACTED]</p>

項目	主な意見と回答
<p>(2) 調査地Lの保全対策</p>	<p>・この写真は、抽水植物の根の部分に水がかぶっているような状況ですよね。そうすると、恐らく10cmとか20cmぐらいの水深がここであると思うのです。とすると、そこは、サギ類だとかシギだとかクイナの仲間だとかは、食べ物をとるために動き回することはできますけれども、そこに巣は造らないですよね。そういう意味で、陸の部分を中心に用意してあげると使われるということですね。カイツブリなんかは巣を造るかもしれませんが。浮巣ですから。</p> <p>他にはいかがでしょうか。ここについては大体よろしいですか。</p> <p>では、最後のF、人工代替巣の今後の維持管理にかかわる話ですね。この辺はいかがでしょうか。台座の固定ですとか巣材の積み増しを今後お考えだということですか。</p> <p>今年の結果だと、ここに示されているように、No.4のコナラが一番出入りが見られたということですね。■■■■■</p> <p>・そうです。(事務局 山田)</p> <p>・基本的にはこういう方針でよろしいでしょうか。■■■■■</p> <p>・■■■■■、よろしいでしょうか。■■■■■</p> <p>・はい。■■■■■</p> <p>・それでは、Lの保全対策、それからFはこのような内容で、先ほどお話しした点も再検討して頂いて進めて頂くということで、よろしくをお願いします。■■■■■</p>
<p>(3) 坂戸高架橋下のビオトープ整備の進め方(案)</p>	<p>・それでは、3番目の、坂戸高架下のビオトープ整備の進め方をご説明ください。■■■■■</p> <p>・「会議資料③ 坂戸高架橋下のビオトープ整備の進め方(案)」の説明(事務局 宮下)</p> <p>・ありがとうございます。</p> <p>実験区のご報告ですが、ご質問等をよろしくをお願いします。いかがでしょうか。■■■■■</p>

項目	主な意見と回答
<p>(3) 坂戸高架橋下のビオトープ整備の進め方(案)</p>	<p>・水がない時期がどうしても出てきますよね。これは、あと何メートル掘れば少なくとも常時1年間一定の水がある部分が保てるのですか。ビオトープという名前をつけてあって、ほかの保護団体からの要請でこれをやるということになったわけですか。5月までの間、水が全部なくなりますよね。このあたり、あとどの程度深く掘れば水面が確保できるのですか。そんなに深くはないですね。■■■■</p> <p>・お手元の資料の2ページをごらん頂きたいのですけれども、「3.1. 地下水位調査結果」というところがございまして、計測地点②が赤い線ですけれども、5月28日のところを見て頂くと、-130ぐらいのところに地下水があるということになります。(事務局 山田)</p> <p>・これはGLですよね。計測地点の高さが全部変わってくるわけね。■■■■</p> <p>・GLというか、この計測地点の高さというのは、1ページの2.1の右側の図の赤いところが位置図となっていますが、この地点です。ここを計測地点の高さとして、それから深さはどのくらいかという状況でございまして。(事務局 山田)</p> <p>・これは塩ビ管を埋め込んでありますけれども、この塩ビ管の地盤の高さということですか。■■■■</p> <p>・そういうことですよ、地盤が。この図によると。■■■■</p> <p>・全体を斜めに深くしているわけですよ。断面図で見ると、地盤のところは、今の図のちょっと下のところに断面図がありますけれども、1.5m掘り下げているわけですね。そうすると、この1.5mのところは計測地点。■■■■</p> <p>・だから、あと1mちょっと掘れば水が確保できるということですよ。まだ⑦、⑧、⑨というところはそんなに深く掘っていない部</p>

項目	主な意見と回答
<p>(3) 坂戸高架橋下のビオトープ整備の進め方(案)</p>	<p>分もあるわけですから、もうちょっと全体的に掘ってあげれば、少なくとも①、②、③のところは常時一年中びたびたでも水がたまるような状況にはできるのではないですか。そういう状況にしたほうが良いと思います。■■■■■</p> <p>・ちょっと確認しますが、今回は、水田に湛水した際と湛水しない際に地下水位がどのように変動するかということを確認したいということと、そういう変動があったときに、水に完全につかってしまうところ、つかからないところのそれぞれの違いでどういう植物種が生育可能なのかを確かめる、そういう目的でやられていますよね。■■■■■</p> <p>・そうです。(事務局 山田)</p> <p>・そこから考えると、①、②、③、④、⑤、⑥までは水田や用水路、畔に生育する種が分布できるということですね、現在のこの状況で。⑦、⑧、⑨の深さは、そういう種は生育できない、乾いた状態になってしまうということがわかったということですね。今、■■■■■がご指摘なのは、今後のことですけれども、常時種を維持していくためにはもう少し掘り下げたほうが良い、そういうお話ですね。とすると、単純に考えると、2.5m掘り下げるといいますか。■■■■■</p> <p>・2ページの地下水位調査結果のグラフを見て頂いて、今年の4月25日から調査いたしました。今年から調査しておりまして、冬の間、地下水位がどこにあるのかというのがまだ調査されておられません。3ページで右側に継続調査ということで、①地下水位調査ということで、月1回通年やっています。今年の冬、初めて冬の間地下水も調査してまいります。そして、どこに地下水があるのかというのを見まして、今後どのようなものにしていくかを検討していきたいと思っております。■■■■■がおっしゃったように、ビオトープで常に水がある状態に本当にできるかどうかというのは、冬の間も地下水の調査をしないとわからないものですから。現実的に周りの田んぼでも、もう今の時期は、水を払いまして、稲刈りが終わって水がない状態で、周りは全部そういう状態でございますの</p>

項目	主な意見と回答
<p>(3) 坂戸高架橋下のビオトープ整備の進め方(案)</p>	<p>で、どんなものができるかというのを今後調べてから検討していきたいと思っております。(事務局 宮下)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後のまとめのところにそういうふうを書いて欲しい。■■■■■</li> <li>■■■■■</li> <li>・わかりました。(事務局 山田)</li> <li>・少し見守っていくということですね。 2ページの3.3のところに、どういう種が出現してきたかがまとめられていますけれども、ここに挙げられている種は、意図的に持ち込んだものはないわけですね。■■■■■</li> <li>・一切ありません。(事務局 宮下)</li> <li>・そう考えると、特にミズワラビ、絶滅危惧種ですけれども、何もしなくても③に出現したということですね。これは重要で、冬場に水がなくて乾燥状態になったところが、水が入ればミズワラビは復活するということですね。こういうことも重要なので、きちっと追跡して頂きたいと思うのです。常時湛水していない、水がなくても、水田耕作のサイクルに従って水が出現したり、なくなったりということの中で適応している種類が幾つか出てくるはずですよ。それを確認すると、今後のビオトープのあり方、どういう環境構造が重要なのかというところの議論ができると思うので、今後の継続調査が重要だと思います。■■■■■</li> <li>・ですから、今後の進め方の4.3の(3)の次に(4)を入れて、調査結果に基づいてビオトープのあり方を再検討するということですね。それを入れないと意味がない。■■■■■</li> <li>・どのように生かせるかということにつながると思います。■■■■■</li> <li>■■■■■</li> <li>・それを入れて下さい。■■■■■</li> </ul>

項目	主な意見と回答
<p>(3) 坂戸高架橋下のビオトープ整備の進め方(案)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高架下を2mも3mも掘り下げるといのはちょっと非現実的ですよ。[REDACTED]</li>   <li>・ここは実験区という見方でいいのですか。実験地ということは、これをある程度結果を出して、広げていこうということでもいいのですか。[REDACTED]</li>   <li>・まず、今やっている取り組み、調査とかをして、積み上げて、今後どうしていくかということを検討したいと思っています。(事務局 山田)</li>   <li>・高架下は広いではないですか。あれを広げてビオトープネットワークをすると非常に良いわけで、その辺のことを視野に入れた実験をしているということですか。[REDACTED]</li>   <li>・本当にほかのところもできるかどうかも含めて、まず今この箇所でこういう取り組みをして、まずデータを積み重ねてから次のをどのようにしていくかを考えることだと思っています。(事務局 山田)</li>   <li>・それも今後のあり方というか、継続といいますか、これはここだけの問題ではなくて、ここをやった結果を踏まえて次の、これを見ると下がまだいっぱいあるではないですか。このところへ広げていくということを前提にやっていることですね。[REDACTED]</li>   <li>・場所、場所によって、高架下といってもいろいろなところがあります。(事務局 山田)</li>   <li>・高低差があるものね。だから、本当はこういうところも、もうちょっと低いところと中間と高いところと3カ所ぐらいやれば、いろいろ結果が出てくるのだと思うのです。それで、どうビオトープネットワークをしていくかということになっていくのだと思うのです。何せ1カ所だけではどうしようもないという感じは、私はするのだけれども。それで、何でやるのかということここには触れていないので、そこをちゃんと書いておく必要はあると</li> </ul>

項目	主な意見と回答
<p>(3) 坂戸高架橋下のビオトープ整備の進め方(案)</p>	<p>思います。将来このようなことを想定しているのだ、だから今ここで実験をやるのだということを是非書いてほしいと思います。■■■■■</p> <p>・ここが実験的なことを始めた初期の目的設定がどうだったかということと、その後やや放置されたりしてしまいましたので、今、■■■■■がおっしゃった、目的に対してどういう位置づけで今これがあるかというところがやや曖昧になっていると思われるので、その辺の整理をして頂きたいと思います。</p> <p>それから、蛇足ですけれども、河川から一番遠い部分の高架下で調整池のために深掘りしたところがありますよね。あそこは木本類が再生していますね。あれも調べて頂くといいように思うのです、比較の意味で。単に掘っただけでも、あれだけ植物が復活してきているという実態がありましたので。</p> <p>できるだけ有効にこういう結果を生かして頂きたい。それから、高架下が、ただ囲われているだけではなくて、周辺の生き物にプラスになるような空間づくりにつなげられれば幸いですので、その辺ちょっとご検討願いたいと思います。■■■■■</p> <p>・はい。(事務局 山田)</p> <p>・ほかにはいかがでしょうか。■■■■■</p> <p>・1つわからないことがあるのですが、素人で申し訳ないのですが、ニホンアマガエルとかトウキョウダルマガエルが確認されたのですよね。あの区域内で確認されたのですよね。産卵の時期には水がないと思うのですが、どこで産卵してかえたのか、考えられることで結構ですから教えてください。■■■■■</p> <p>・調査を担当しています埼玉県生態系保護協会です。</p> <p>今、■■■■■からご指摘がありましたように、カエルの仲間は5月までは水がないものですから繁殖も生息もできない現状なわけですけれども、その後、周りの田んぼとの兼ね合いの中で、ビオトープに水が入りカエルも生息するようになる。特にアマガエルの場合は繁殖期間が非常に長くて、6月、7月、8月までわたって親が入</p>

項目	主な意見と回答
<p>(3) 坂戸高架橋下のビオトープ整備の進め方(案)</p>	<p>つてきて卵を産むという、産卵期間が長い関係で、ここに写真がありますけれども、周囲の水田等から親が歩いて入ってきて、卵を産んでオタマジヤクシになったということだと理解しています。</p> <p>トウキョウダルマガエルについては、残念ながらオタマジヤクシまでは確認できていないのですけれども、親がやはり歩いてきて、水域ができたので周りの田んぼから入ってきたということかなと。</p> <p>例えばカエルの仲間でもニホンアカガエルですと、早春期の2月、3月で非常に繁殖期が早く、しかも短期間なものですから、残念ながら、水がない時期となり、カエルの仲間でもそういったものは確認されておりません。</p> <p>アマガエルとトウキョウダルマガエルについては、ここに入ってきてしかるべきなのかなと理解しています。((公財) 埼玉県生態系保護協会 須永)</p> <p>・産卵時期のずれが生息可能にしているということですね。■■■■</p> <p>・はい。((公財) 埼玉県生態系保護協会 須永)</p> <p>・下のハイイロゲンゴロウ、アカネ属の一種も同じように考えてよろしいですか。■■■■</p> <p>・ゲンゴロウ類については、羽があつて飛翔ができるものですから、水域ができたということで成虫が飛んできて生息を始めた。アカネ類についても、トンボの仲間なものですから、成虫が来て、これはヤゴが確認されていますので、産卵をしてヤゴに至った状態だと思います。((公財) 埼玉県生態系保護協会 須永)</p> <p>・わかりました。ありがとうございます。■■■■</p> <p>・カエルは予想以上に広範囲の移動が可能ですし、水辺がなくてはだめかといえ、そうではないですね。丘に上がって暮らしている時間が長いですからね。ほかにはいかがでしょうか。■■■■</p>

項目	主な意見と回答
<p>(3) 坂戸高架橋下のビオトープ整備の進め方(案)</p>	<p>・アキアカネはこれから平地や田んぼで卵を産むのです。田んぼが乾燥しても大丈夫で、水が入ったときに復活してきて、春に生まれたらまた山へ行くようなことですから、アキアカネだとしたら素直に来ているのだと置いていけば良いのだと思います。■■■■■</p> <p>・ありがとうございます。■■■■■</p> <p>・こういう小動物もきちっと記録をとって頂くと、生態系全体像がつかめることにつながりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>ほかにほよろしいでしょうか。保全対策の幾つかですけれども。事前のご説明でいらっしやったときに、外来種の植物をどう取り扱うかということでごちよつとご相談して、選択的に除去したほうがいいだろうというお話をしておいたのですが、そのときに、ある意味で実験の場なので、どういふ刈取りの仕方をすると有効なのか、それも実験的に刈取りのパターンを変えてやられてはどうかという提案をしたのですけれども、そんなのでよろしかったでしょうか。実験区それ自体が狭いので、なかなかいろいろなことはしにくいと思ひますけれども、やれる範囲でおやりになったらいいかなと思ひました。</p> <p>もしこれ以外でご提案その他、ご質問、ご意見がなければ、一応、坂戸高架橋下のビオトープ整備の進め方(案)、このような内容で進めて頂くといいことで、よろしくお願ひいたします。</p> <p>ほかに何かお気づきの点はございますか、全体を通して。■■■■■ ■■■■■</p>
<p>その他</p>	<p>・これ以外でも良いですか。■■■■■</p> <p>・どうぞ。■■■■■</p> <p>・事前の説明会のときにちよつと言ったのですけれども、このように調査地Lの保全対策ができてきているわけですけれども、新聞報道によると平成27年3月には供用開始だそうです。私は埼玉県に友達がいるので聞いたら、知事は、当然27年3月に開通だというふうにおそびているそうですけれども。</p>

項目	主な意見と回答
その他	<p>それは別として、このようにある程度供用開始が迫ってきているわけですね。そういう中で、この対策会議で調査地D-Eについて保護対策を立てたわけですね。グリーンネット、遮蔽パネル、いわゆるA地区とかH地区と同じような形での保護対策をします。ということは具体的にどうなっているのですかと、図面ができていたのだったら図面はできている、工事はどういう形で進めるのかということをお願い、ということをお願いの時に聞きました。この点は、次回ということですが、これは次回ではなくて今説明できることではないかということです。</p> <p>もう一つは、上尾道路についても、地元の保護団体とかいろいろな関係の中で、あそこについては遮蔽パネルを設置するということを■■■■前副所長も含めて事前の説明会でそういうやりとりをして、それについては、メモを調べたら、上尾道路については構造的に4.1mの遮蔽パネルは無理だけれども、3m程度のパネルは設置できるので設置する、そういうことできちんと設計等を進めるというふうに答えているわけです。そのあたりがどうなっているのかということだけは教えてほしいと思います。■■■■</p> <p>・本日のこの会の初めのときに、きょうは答えられないけれどもというお話を出されていますが、そのところに絡むお話なので、状況だけご説明ください。■■■■</p> <p>・本日は具体的な図面等はお示しできなかったのですが、まず調査地D-Eにつきましては、今具体的な設計をしているところですので、今申しましたように、具体的な図面だとかそういうものはまだまとまっていないものですから、きょうはお示しできませんでした。基本的には、既に調査地Aとか調査地Hで設置しているようなグリーンネット及び遮蔽施設と同様な構造を考えています。次回以降に具体的な、こういうものになりますという図面等をお示しできるかなと思っているところですのでございます。</p> <p>それから、上尾道路と言われています調査地Gのお話だと思いますけれども、これにつきましては、各委員の方はご存じだと思いますけれども、昨年2014年12月に、このオオタカ会議から、オオタカ保護の観点から以下の資料により審議しました、当会議の意見を取りまとめましたので報告しますということで、こういう文書が</p>

項目	主な意見と回答
その他	<p>ありますので、これをもとに、現在、地域の状況等を勘案しながら検討を進めているところをごさいますて、まだ具体的にどのようにするかということは決まっていないところをごさいます。 (事務局 山田)</p> <p>・ただ、調査地 G についても、オオタカの保護対策会議の中で意見を出して、事前の説明会の中で、そこについては遮蔽パネルを設置するという形で進めるという話があったわけですので、そういう形で進められるのかどうか。そうでないとちょっと筋が違ってくるわけですので、前副所長も含めてもう一度そのときのやりとりをきちんとしてもらわないと、地元の保護団体との関係もありますから。</p> <p>私が明確に覚えているのは、普通は、遮蔽パネルは4.1mですよ。ただ、構造的にそういうことになっていないので、3mだったら大丈夫だと。そのときに私は、上のほうを垂直ではなくて、できるだけちょっと内側にカーブできるような形でできないかと。では、それも含めて検討しますという回答をもらっていますので、そこをきちんと確認してください。 [REDACTED]</p> <p>・24年12月の報告を見ますと、御存知かと思えますけれども、桁下が5m程度であることにより、採餌行動時に橋桁に衝突することを心配する必要はない。オオタカの飛翔能力から考えても問題はない。なお、桁下が2m以下となる一部区間については、桁下にオオタカが侵入しないような配慮が必要である。3つ目ですけれども、オオタカの視界への配慮、オオタカの走行する自動車への衝突防止のため、遮蔽施設を走行する自動車の高さまで設置することが必要であるというような書き方になっていますので、今我々としてはこれをもとにいろいろな検討を進めているところをごさいます。 (事務局 山田)</p> <p>・ですから、遮蔽施設は3mという話を具体的にしていますので。 [REDACTED]</p>

項目	主な意見と回答
その他	<p>・では、そこは確認しますがけれども、今私たちとしては、この文書が最終版だと思って、これが合意されたものと思っていますので、これをもとにいろいろな検討をしているところでございます。(事務局 山田)</p> <p>・具体的に遮蔽パネルはつくるということになっているわけでしょう。■■■■■</p> <p>・パネルというか、遮蔽施設という言葉なのですがけれども、それはいろいろな目的に対応するものであればいいと思っていますので、パネルも1つのことかもしれませんが、それも含めて今検討しているところでございます。(事務局 山田)</p> <p>・では、一応私はそのように確認していますので、それで地元の保護団体にも話をしていますので、齟齬があると後で困りますから、ちょっと確認してもらえますか。平成24年9月の事前説明会のときにこの件を話し合ったと記憶しています。■■■■■</p> <p>・そうしましたら、今、構造的なものを詰めていらっしゃるって伺っていますので、次回にその辺を踏まえて提案をして頂ければと思いますし、上尾道路のほうはご確認頂いて、どの程度進んでいるか明らかにして頂ければと思います。■■■■■</p> <p>・わかりました。(事務局 山田)</p> <p>・ほかにはいかがですか。よろしいですか。 そうしましたら、私が進行する議案は全て終わったということで、お返しいたしますので、よろしくお願いいたします。■■■■■</p> <p>・ありがとうございました。 本日頂きましたご意見等を踏まえまして、調査地Lの保全対策の、IC周辺の在来植生による自然化、IC周辺の調整池のビオトープ化の整備を進めていきたいと考えております。 また、調査地Fへの営巣地誘導対策につきまして、人工代替巢の状況を確認し、補修もしていきたいと思っております。</p>

